

1 めざす子ども像に向けた授業実践に関する考察

(1) 授業の構想

① 本単元で求める子どもの姿

○ 五十鈴川や守る会の人とかかわることをとおして、自ら課題を見付け、仲間と共に未来を見据えて考え、実践する子ども

② 本単元で求める子どもの姿を実現するために

ア 五十鈴川にかかわる活動や、「五十鈴川を守る会」の田畑さんの思いにふれる活動などを繰り返す単元構成を仕組む。そうすることで、自分たちの思いや実践と、地域の人々の思いとを関連させながら、五十鈴川を守る活動について考えることができるようにする。

イ 気付きや活動場所を川の絵に蓄積していく。そうすることで、空間と時間の視点をもって五十鈴川を守る活動について考えることができるようにする。

ウ 子どもから具体的な方策が出た際には、守ることにつながるのかを問い返す。そうすることで、具体的な方策と自分たちの思いとを結び付けて話し合うことができるようにする。

エ 振り返りを行う際、「五十鈴川を守る上で大切なこと」を視点にふり返るよう促す。その際、活動を長期的に捉えた考えを見取り、全体に広げる。そうすることで、未来の五十鈴川を見据えながら今後の活動を考え、学習活動を発展的に進めることができるようにする。

③ 目標

○ 五十鈴川で遊ぶことや、「五十鈴川を守る会」の人との出会いをとおして、地域の一員としてきれいな五十鈴川を守りたいという思いをもち、自分たちにできることを考え、実践することができるようにする。

○ 人と人がかかわりながら環境を守っていく大切さに気付き、環境保全に貢献する喜びを味わうことができるようにする。

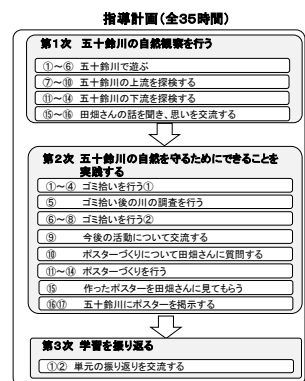
(2) 子どもの学びの実際

※波線は求める子どもの姿、下線は前述の支援との対応を表す

本単元は、子どもたちが「五十鈴川を守るためにできること」を追究していく学習である。以下に、本単元で求める子どもの姿が表れた場面を中心に述べる。

① もっときれいだったらいいな【第1次の学び】

五十鈴川で遊ぶ活動から単元をスタートした。始めは川の水に触れ、その冷たさに歓声をあげていた子どもたちだったが、2回、3回と遊ぶ活動を繰り返すことで、タオルや網を自ら準備するなど思いをもって五十鈴川にかかわるようになってきた。活動後の振り返りで、板書上に川の絵を提示し、活動の気付きを書き加えていくよう促した。【支援イ】すると、子どもたちは気付きの書き加えられていない箇所に興味をもち「上流はどうなっているのだろう」「五十鈴川の始まっているところを見てみたい」と語り出した。板書を利用して俯瞰的に見ることによって、子どもたちは遊んだ区域から空間的な視野を広げて川を捉え、上流や下流へ意識を向けていったのである。その後、上流や下流を探検する中で子どもたちが「遊んだところより汚いところがあった」「もっときれいだったらいいな」「だったら、次の活動でゴミ拾いをしたらどうだろう」と発言していった。思いをもって対象に関わることを繰り返したことで、子どもたちは五十鈴川に愛着をもち、単元始めには気付かなかった川の環境に目を向け「五十鈴川をもっときれいにしたい」と問いをもち、「ゴミをなくそう」と課題を設定していったのである。



板書上の川の絵に書き加える子ども

② こんなにたくさんのゴミがあったのか【第2次第8時の学び】

二度のゴミ拾い活動を行った子どもたちから「ゴミはまた落ちているかも」「ゴミ拾いをしてもきりがないよ」という意見がでた。そこで、今後の活動について考えを交流する場を設定し、拾った物や気づきを板書上の川の絵に描き加えていくよう促した。【支援イ】以下に、板書を見て気づきを交流した際の子どもの姿を記す。

H児 わたしは上流でゴミを拾ったけど、下流のみんなはもっとたくさん拾っていてびっくり。【空間的視点】

U児 次は、上流に網を設置して流れてきたゴミを取ろうよ。下流のゴミも減ると思うよ。【空間的視点】

I児 人がゴミを捨てているから、ゴミ拾いだけではきりがないよ。【時間的視点】

K児 ゴミを捨てることを止めないといつまで経ってもきれいにならないってことか。【時間的視点】

I児 それなら、ゴミを捨てないように呼びかけるポスターを作ろうよ。【時間的視点】

子どもたちは、板書によって視覚的に現状を捉え、空間と時間の視点をもって、具体的な方策について考えていったのである。

③ それは、きれいになることにつながるよ【第2次第9時の学び】

前時に子どもたちが考えた多くの方策について「みんながしたいことは、五十鈴川をきれいにすることだったよね」「みんなのアイデアは五十鈴川をきれいにすることにつながるのかな」と問い返した。【支援ウ】すると「ポスターを作ってゴミを捨てないように呼びかけたら、きれいになることにつながるよ」「私たちのゴミ拾い活動のことも伝えたら川にゴミを捨てる人は減るのではないかな」というような発言が見られた。このように、単元をとおして追究したいことにつながるのか問い返すことによって、具体的な方策と自分たちの思いとを結び付けて話し合うことができたのである。

④ そうだ田畑さんに聞いてみよう【第2次第10時の学び】

第1次で子どもたちは「五十鈴川を守る会」の会長の田畑さんに会い、五十鈴川に対する思いや歴史について話を聞いて【支援ア】いた。子どもたちはポスターを作る過程で「作ったポスターは五十鈴川の近くに貼りたいな」「でも川に掲示するには許可が必要ではないかな」「そうだ、田畑さんに相談してみようよ」と考えていった。ポスターの掲示について助言を得ることができた子どもたちは、その後「掲示する前に、できたポスターを田畑さんに見てもらいたいな」と考えた。単元構成を工夫【支援ア】したことで、自分たちの思いや実践と、五十鈴川を大切にしていきたいという地域の人の思いとを関連させながら、五十鈴川を守る活動について考えることができたのだ。

⑤ いつまで掲示できるのかな【第2次第11時の学び】

第2次以降は「五十鈴川を守る上で大切なこと」を視点にふり返しを行ってきた。ポスターづくりのふり返りの際には、O児が「ぼくたちのポスターはいつまで掲示できるのかな」と疑問をもっていることが分かった。そこで、この発言をクラスに紹介した。【支援エ】すると、子どもたちは「期限については市や田畑さんに聞いてみよう」「なるべく長く掲示したいよ。卒業までの1年間がいいな」「そのためには、長く掲示できる材料を使おう」「紙をラミネートしても変色するだろうね」などと語った。支援エのように、活動を長期的に捉えた考えを見取り、全体に広げたことで、子どもたちは未来を見据えながら活動を考え、学習活動を進めることができたのである。

(3) 授業の考察

板書上の川の絵に前時の活動の子どもの気づきを書き加えていくことが視覚的な支援として有効であった。板書上に書かれたことをもとに子どもたちが主体的に考え、交流する姿が見られたからである。今後も子どもの発言を大切に授業を進め、子どもたちが課題を自分事として考えていくことができるようにしたい。

2 今年度の振り返り

(1) 授業実践する中で見えてきたこと

繰り返しかかわる単元構成

単元の始めにしっかりと五十鈴川で遊ぶ時間を確保した。遊んだ後の振り返りで「次は、網を持って行きたい」「次は、着替えとタオルを持って行きたい」などと次への遊びに向かう発言が多く出た。それなら次も遊びに行こうと、結局3回遊びに出かけた。3回目の遊びを終えて振り返りをしていると、R児が「そういえば、この川ってなんていう川」とつぶやいた。それを聞いた他の児童が「いすずがわって川」「漢字が難しかった気がする」と答えた。その時点では、クラスの半数以上が川の名を知らなかったのだ。しかしその後、繰り返し川とかかわる活動を重ねていくことで、今では全員が川の名を漢字で書いている。このように対象に繰り返しかかわることによって、ただの川だった五十鈴川が大切な川となり、自分事として課題を考えることにつながっていったのだ。

子どもの意識を大切にしたい授業

上流探検や柳の水を使ったお茶会をした後、次時の下流探検の計画について話し合っていた時間のことである。歩いて行くか、バスで行くかについて子どもたちの意見が分かれていた。探検にかかる時間のことや、バスの予約のことなど多くの意見が出される中、それをじっと聞いていたI児が突然「バスは意味ないよ」と発言した。「どうしてそう思うの」という教師の問い返しに対して「だって僕たち勉強してるんだよ。川の側を行った方がいい」と発言した。それを聞いたH児が「わかる。バスだと川がないところも通るでしょ。それだと川が見れない。だから歩いた方がいい」と発言し、全員がこの意見に賛成した。問い返しによって子どもが思いを表出できるようにすることで、五十鈴川という対象をしっかりと見つめながらかわろうとする子どもの姿を明らかにし、全体で共有することができた。子どもたちは何をしたいのか、どんな願いをもっているのか、子どもの意識を大切に授業を考えていく。そうすることで、学んだことを自己の生き方につなげて考える子の実現につながると考える。

(2) 求める子どもの姿と来年度に向けて

今年度、繰り返しかかわる単元構成と子どもの意識を大切にしたい授業を行うことで、単元をとおして以下のような子どもの発言が見られた。

- T児 U君の五十鈴川はきれいにならないという意見に納得。確かに簡単なことではなさそうだと思います。でも、可能性は0ではないから、今できることをがんばりたい。あきらめずに最後までやりきって、昔のようにきれいでホタルの棲むの五十鈴川にしたい。【未来を見据える】
- O児 川に下りてゴミのことなど初めて気付くことがあった。清掃活動をしてみて、35人じゃ全然足りないと思った。これからは、地域との協力が大切だと思う。もっと一緒に清掃活動をする人が増えたらいいと思う。【自己の生き方につなげる】
- I児 これからは積極的に地域のボランティアに参加して、川や地域を大切にしていきたい。今の自分は道に落ちている空き缶などは拾えないから、拾える人になりたい。【自己の生き方につなげる】

上記のように、子どもたちが学んだことを自己の生き方につなげて考えることができるように、「繰り返しかかわる単元構成」と「子どもの意識で授業をつくる」を大切にしていく。



冷たくて気持ちいいな



歩いて下流探検



ゴミを拾ってきれいな川に